

改善計画書(兼改善状況報告書)

優先順位	改善項目No.		改善目標	改善に向けた計画内容	期間	評価(19年1月20日現在)
	自己	外部				
改善済	83	48	薬の管理を正確に行う	朝・昼・夕の仕切りを利用者分用意し、その中に仕分けし、見た目でも管理できるようにする。	平成18年7月より	薬の管理がしやすくなる
改善済	117	63	事故報告書の内容についての見直し	事故報告書に今後の対応欄を設け、事故防止につなげる。	平成18年7月より	事故防止について、今一度考える機会となる
改善済	144	73	火災・地震災害の手引書の作成	手引書を作成する。	平成18年7月より	手引き書作成により、避難訓練の重要性を再認識し、併施設との連携の大切さもよく理解できた。
1	106	58	ストレスを少なくし、向上心を養う	職場以外での職員間の交流を図ったり、研修会への参加により他のグループホーム職員との情報交換の機会を持つ。	定期的に	職員間のコミュニケーションが図れ、ストレスの解消につながった。また、他のグループホーム職員との交流も参考になり、プラスとなっている。
2	11	9	転倒の危険性を少なくする	指定場所の使用をやめ、別の場所を確保する。		指摘場所の通路は避難通路でもあり、十分な廊下幅を確保するには、階段の増設や手すりの設置が困難であるため、物干し場を別の場所に確保する事により、転倒の防止に努めたい。
3	6	5	近隣の住民が訪れやすい雰囲気を作る	玄関周りを家庭的な雰囲気にする。	随時	当ホームは併設型であるため、構造上家庭的とはいえない。ハード面ではなく、ソフト面で花を飾ったりし、入りやすい雰囲気を作っている。
4	101	55	地域住民の相談に乗れる	勉強会の開催や研修会への積極的な参加を心がける。	随時	知識の習得にはつながっているが、まだ十分にアドバイスできる状況ではない。

5	133	71	ホーム独自の取り組みを行う	管理者だけが対外的な活動へ参加するのではなく、職員全員が対外的活動に参加できるだけの能力を身につけ、全体的なレベルアップを図る。	随時	管理者一人に負担をかけることなく、他の職員へも自覚が芽生えた。運営上も管理者責任は難しく、全員対応を心がけたい。
6	134	72	認知症ケアの専門性を生かしたホーム独自の取り組みを行う。	運営推進会議や家族会、各種行事を利用し、認知症に関する相談や、知識の提供等入所以外でも地域へ還元していく。	随時	職員一人ひとりの自覚を促し、知識修得へも以前より前向きになれた。
7	5	4	ホーム独自の取り組みを行う	運営推進会議や家族会、各種行事を利用し、独自の運営理念の啓発に努める。	随時	職員一人ひとりの自覚を促し、レベルアップにもつながっている。